

令和 6年度 こども園（保育園）関係者評価
園評価・評価委員最終評価シート

子育てセンターとみがおか

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和 7 年 2月14日 9：30 ～ 11：00（ 金 ）

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

みんななかよし ～こどもがめぐり逢うすべてのことに～

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

ところが ぽっかぽか ～こどもが うれしい ことばって なぁに？～
自己肯定感を育む教育・保育に取り組む3年目となる。自己肯定感を育むには、子どもが生活や遊びの主人公となることが大切で、昨年度はそのための物的環境について皆で学び、子ども達の生活や遊びの環境の見直しを行ってきた。今年度は、人的環境についての学びを深め、子どもの目線に合わせ気持ちや考えを共有したり共感したりし、「どうしたの？」「どうしたいの？」と自己決定できる言葉を伝えたり、「おもしろいね」「すごいね」「すてきだね」など肯定的な言葉を子ども達に伝えていきたい。
また、言葉を伝える前に目の前の子どもの姿をどのように受け止め、保育者としてどのような言葉をかけることがよいのか実践を通して学んでいく。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	・年度初めに全体でグランドデザインの共有を行い、園の教育・保育理念の理解と意識に繋がった。 ・重点目標に対し、子ども自身が自己決定できる言葉掛けや、肯定的な言葉掛けを学ぶ研修を行い、理解が深まるように取り組んだ。 ・実践したことを、カンファレンスで共有したことで、子ども達への関りを振り返るだけでなく、子ども達のありのままの姿を受け止め、尊重する意識の向上にも繋がったと感じている。 ・実践を通して、言葉掛けの難しさや、知識、技術の未熟さを痛感した。継続した取り組みを行っていきたい。	4	・令和6年度のこども園関係者評価における参観や取り組みに対する資料等を拝見する限り、研修の数も多く重点目標に対する計画と取り組みが徹底されていると評価する。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	3	・指導計画の作成においては、クラス間で話し合いながら行っている。また、教育・保育の振り返りや子どもの実態も踏まえながら週案に反映することを意識している。 ・クラス活動や異年齢活動がある中で、まだまだ連続性のある活動の充実や、興味や関心・意欲に合わせた活動提供はバランスが難しく不十分だと感じる。 ・環境面においては、保育の基本と社会的ニーズを踏まえながら、人的環境にアプローチを行い、当たり前や慣れによる教育・保育の質の低下にならないよう、魅力的な園づくりや活動に繋げたい。	4	・園の評価理由に連続性のある遊びの充実が不十分であったが、太鼓活動など年間を通して、計画的に練習や披露の機会が設けられていると感じる。子どもも見通しがもてており、家庭でも活動の取り組みや期待する声が聞こえたりと、活動の連続性はされていると言える。 ・遊びの充実面においては園庭に出れば、遊具や玩具等が常により、好きな遊びを選ぶことができる環境が整えられている。十分だと評価する。

Ⅲ. 子どもにとっては 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る	3	・今年度の重点目標の取り組みもあり、一人ひとりに目を向け共感や肯定的な言葉掛けを意識した関わりができた。 ・保育者の関わりにより、子どもの気持ちはどうだったか、満足したのか確認することは難しいが、確かな信頼関係の築きも感じる。子ども達がよりその子らしくいられる為に、安心感や信頼感を一層築いていきたい。 ・遊びの種類を増やしたり、子ども達の「やりたい」という言葉から遊びを提供することは行ってきたが、子ども自身の遊びたい遊びができていたか、満足いくまで遊び込めていたかと課題が残る。また、遊びの数や提供の仕方は充分ではないと感じている。 ・子ども達自身の自ら生活を作り出していく力が養われるように、遊びや生活の中で、子どもの意思や自己決定を尊重した教育・保育を行っていきたい。	4	・常に丁寧な言葉がけが見受けられ、否定的な言葉が聞こえてくることはなく子ども達一人ひとり認められていることが伝わる。 ・色々な遊びが選べたり提供されていると感じる。子どもも「〇〇したんだ」と楽しそうに教えてくれる。与えられることが当たり前にならないように、子ども自身が遊びを見つけたり足りないものを自ら工夫して生み出すことも大切だと思う。
Ⅳ. ファミリーにとっては 1. 気軽に相談できる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ	4	・送迎時には、十分なコミュニケーションが取れない場面もあるが、子ども達の園での様子が伝わる様に丁寧な対応を心掛けている。また、必要に応じ面談等個別対応も行った。 ・保護者の方とコミュニケーションをとる際や、お便り等の情報を伝える機会では、教育・保育の場として子どもの様子の中に園の理念や方針、また、発達等も踏まえた専門的な情報も取り入れていき、子育てのアドバイスや充実に繋がっていきたい。 ・保護者参加型の活動や人数制限の緩和等を行い、多くの方が来園する機会が増え、子ども達の姿だけでなく、園の取り組みを知っていただく機会が増えた。園の情報は伝わりやすくなったと感じるが、園を通して地域の情報や地域との関りが伝わっているかは課題がある為、発信の仕方を工夫していききたい。	4	・迎えに行くと、園での様子を伝えてくれる。また、何かあると必ず報告してくれる。担任だけでなく、色々な先生から声を掛けてもらうことも多く、職員間の連携や対応が早い。 ・先生は子ども達に親身に寄り添い、子ども達は先生に甘えることもできたり、園に行くことを楽しみにしていて、先生と子どもとの距離感が良いと感じる。保護者からの相談にも快く耳を傾けてくれたり、不安になりすぎないようにアドバイスや安心感をもたせてくれ、保護者との距離感もいいと感じる。
Ⅴ. 地域にとっては 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように	4	・地域子育て支援センターを併設しており、来所者には子育ての情報発信だけでなく、園内案内も行い、園の様子や取り組みに関心をもっていただく機会になっている。 ・今年度から平日や土曜日の園庭開放、食事体験も再開し多くの方が利用され、より具体的に園の雰囲気や活動を知っていただく機会に繋がっていると感じる。 ・定期的に、保健師や看護師に子育ての悩みや相談ができる機会を設け、利用者からの問い合わせも多く反応も良い。 ・園に来ていただける方への支援は充実していると感じるが、地域で一人でひっそり子育てをしている保護者に対する支援は課題である。	4	・園が取り組んでいること、取り組もうとしていることで十分な役割を担ってくれている。園がここにあるだけで地域にとっては良い。今のまま園があり、地域の方も訪れることが出来るようになっていけば良い。 ・近所の方と顔が知れていけば良い。 ・育児に悩みを抱えているが地域に出てこれない家庭は現状ある。しかし、園だけが頑張れば良い訳ではない。もっと地域が頑張ることが必要であると感じる。
Ⅵ. スタッフにとっては 1. 個性が生かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ	3	・チームとして取り組む意識は高く相手を尊重することができる。半面、個人の意見の自由な発信や、得意なことや良さの十分な発揮はされていないと感じる。 ・相互の関係を構築していき、より風通しの良い職場作りに繋げ、教育・保育の質の向上や業務の効率化に繋げたい。 ・園内外の環境は、掃除が行き届いていなかったり老朽による破損が見られる。子ども達が過ごす場所だけでなく多くの方が来園する場所として、アンテナを高くもち、常日頃から心地よい環境に対する心掛けと取り組みを行っていききたい。	4	・送迎時に先生達に会うが、ビリビリしているような雰囲気は感じられない。職員同士コミュニケーションが取れており、和やかな様子が伺える。職員同士も程よい距離感が保たれていると感じる。良い雰囲気は子ども達にも伝わっている。